

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

## ちょっと長い前置き

2月11日に日山協ジュニア情報交換会が開催された。今年で10年目になるこの会には特別の事情のない限り出席し、全国のジュニア育成についての取り組みを参考にさせていただいてきた。とりわけ2011年のこの会でお話いただいた広島岳連の松島宏さんと今村みずほさんの「わんぱく登山部」の実践は、僕にとって新しい世界をひろげてくれるものだった。今回は当初その今村さんの「わんぱく登山部のその後」の報告が聞けるということで楽しみにしていたのだが、残念ながら予定があわずそれはNGになってしまった。そんなわけでお世話になってきた会なのだが、日山協のジュニア委員長の中瀬さん（明大中野高校山岳部顧問）から、高体連も加盟団体になったことや私自身も日山協のジュニア委員であるという両面から、今年のこの会で何か話をしてくれないかと依頼された。それで、お役に立てるならと話をさせていただいた。話の中身は、昨年3月に発行された国立登山研修所の「登山研修 Vol. 31」に「高校山岳部の安全登山——長野県の場合」と題して書いたことである。この論考はもともと登山研修所のアドバイザー一渡邊雄二さんから、依頼されたものだが、私としては自身の山岳部指導を客観的に分析するいい機会になった。それで、すでにもうお読みの方もいるかとは思いますが、この場でも紹介したいと思う。ご意見をお寄せいただければ幸いです。また高校山岳部の指導の一つの試みとして参考にしていただければとも思う。

\*\*\*\*\*

以下の論考は、国立登山研修所 登山研修 Vol 30-2016 に掲載したものです。高校山岳部の活動のサイクル私なりに整理して、安全登山という観点から検討したものです。大町高校は、昨年4月統合で大町岳陽高校となりました。

## 高校山岳部での安全対策——長野県の場合

大西 浩(長野県大町高等学校)

### I. はじめに

合宿を終えて、学校に帰り、テントを干したり、コッヘルを洗ったりして、道具を片付けている生徒たちの陽に焼けてちょっぴりたくましさを増した顔。そんな顔を見ると、いつも素敵な気持ちになってくる。彼らを前に、解散前のミーティングで私は「帰ったらまず合宿に参加させていただいたことへの感謝の気持ちを込めて家族にお礼を言おう。そして、今回の山で得たことや楽しかったことを家族にしっかり話そう。」という二つのことを伝える。私の持論として、こうすることで、家族のクラブ活動への理解が深まると同時に安心ももたらすと考えるからだ。高校生の登山は、家族の理解があってこそその活動である。

### II. 高校山岳部の活動の目指すもの

高校山岳部の目的をどこにおくかは、その学校、また顧問それぞれの考えにより、一概には言えないが、自然教育・環境教育の重要性が叫ばれる今、その意味が小さくないことは言うま

## 高校山岳部活動の目指すもの

全国規模での高校性山岳部員の実態調査(登山医学2015 山本、大西、村越)  
山岳部に入ってよかったと思うこと(生徒による自由記述をまとめたもの)

項目	具体的な内容	割合
山や登山の魅力	美しい景色や自然と出会えた、山が大好きになった、登山が楽しい、クライミング、沢登り、スキーを知ることができた、など	52%
人との交流	よい友人(同級生、先輩、後輩)や先生と巡り会えた、登山を通して様々な人と出会うことができた、など	31%
体力や健康の改善	体力がついた、健康になった、など	29%
精神面での充実や成長	学校生活全体が充実した、自主性、協調性、忍耐力、精神力が向上した、自己発見ができた、生活習慣が改善した、普段の生活のありがたみがわかった、苦手だった運動が好きになった、など	26%
知識や技能の習得	炊事ができるようになった、有事のサバイバル能力が身についた、など	10%

でもない。また、昨年度実施した高校山岳部員へのアンケート調査の結果<sup>1)</sup>を見ると、入部動機については、「山や自然が好き」「山や自然に興味があった」といった理由を答えている生徒が30%を超え、さらに「楽しそうだから」が15%程度で、この3項目で概ね5割近くを占めている。そのような生徒を前に、彼らのニーズに応えるべく、山や自然への興味や関心をさらに高め、その楽しみ方を伝える活動が求められている。

しかし、彼らは未成年であり、判断力も充分ではない。同じクラブとは言っても、社会人の場合であれば自己責任の一言で片づけられることも、高校の場合にはそうはいかず、引率者に問われる責任も重い。その意味では、根本には安全登山の観点が不可欠である。以下、私の取り組んでいる大町高校山岳部の活動の様子を紹介する中で、高校山岳部のめざすものを安全登山という観点から考えてみたい。

まずは、今年1年間の山行実績を示した本文末尾の表(3月については予定)をご覧いただきたい。最低月1回の山行を行うことを励行しているが、表にも示したように、私は1年間の活動を4つのタームに分けて活動を組んでいる。そして、それぞれのタームにおいて、目的を明確にし、関係する生徒はもちろん学校、家庭にも周知する。とりわけ、年度当初と冬山の前には丁寧に対応することを心がけている。

第1タームは6月上旬に開催される高体連の県大会<sup>2)</sup>を目標に活動を展開する。新入生は登山の基本を学び、上級生は大会入賞を目指して登山技術をさらに向上させる時期である。5月には県の山岳総合センターが針ノ木雪渓で開催する「高校登山研修会」に参加し、歩行技術や生活技術、ロープワーク等の基本技術を学ぶ。そして直後の中間テストには、全力で臨ませる。1年生にとっては、高校生活最初の定期テストはその後の3年間の始まりとして、3年生にとっては進路を決めるためのものとして極めて重要な位置を占めている。まず高校生活ありきが私のスタンスだ。それが終わると、県大会にむけての現地地下見を2回実施。体力トレーニングに加え、読図力の強化や生活技術(テント設営や炊事など)、気象や救急の机上学習や計画書作りなど多岐にわたる審査項目に対応するための準備の日々を経て、県大会を迎える。県大会では、登山の総合的な力が審査され、自分たちの力が客観的に評価される。このタームは、単に大会での順位を競うのではなく、安全登山のスタンダードを確認するための重要なステップである。

第2タームは、高校山岳部のメインイベントと位置付けている「夏山合宿」を目標においての活動となる。そこに向けては、日帰り登山、1泊2日の準備合宿を経て、3泊4日の合宿へとステップアップしながら動機づけしていく。昨年度は裏銀座縦走、今年度は別表のような縦走を行った。かつては5泊、6泊ということもあったが、学校の多忙化の中でなかなか長期合宿を行うことは困難になっている。しかし、最低でも3泊以上というのは必須の条件としている。無雪期における高校山岳部の一つの目標をここに設定し、そのための、担架力、体力、精神力、技術を想定して錬成を行っていく。(以下次号)

2015年度大町高校山岳部の1年間の山行（3月は予定）

	期日	山域（内容）・・・太字はメインの活動
第1ターム	4月25日-26日	鍬ノ峰（新人歓迎焼肉とテント泊体験・日帰り登山）
	5月 9日-10日	針ノ木雪渓（長野県山岳総合センター高校生研修会）
	5月16日-17日	烏帽子岳・湯ノ丸山（高体連県大会下見①）
	5月30日-31日	烏帽子岳・湯ノ丸山（高体連県大会下見②）
	6月 4日- 6日	烏帽子岳・湯ノ丸山（高体連県大会）
第2ターム	6月19日-21日	蝶ヶ岳（高体連北信越大会）
	6月21日	クライミング（県大会兼国体予選）
	7月11日	鍬ノ峰（整備登山・日帰り）
	7月18日-19日	赤岩尾根～鹿島槍～種池～扇沢（夏山準備合宿）
	8月13日-16日	針ノ木～黒部谷～五色ヶ原～空堂～雷鳥沢～真砂～立山～黒部谷（夏山合宿）
第3ターム	9月 5日	白水谷（沢登り）
	9月 6日	クライミング（長野県山岳総合センター高校生研修会）
	9月18日-19日	馬羅尾高原・雨引山（高体連新人大会）
	9月20日-21日	七倉～船窪～烏帽子～ブナたて尾根（秋山縦走①）
	10月10日-12日	八方尾根～唐松～五龍～鹿島槍～爺ヶ岳～扇沢（秋山縦走②）
	10月16日-17日	研修合宿・鍬ノ峰（中信地区安全登山技術研修交流会）
	10月18日	外岩マルチピッチクライミング（小川山）
	11月14日-15日	美ヶ原（次年度県大会下見）
	11月16日	全国選抜クライミング選手権長野県予選
第4ターム	12月 5日-6日	馬羅尾高原・雨引山（冬山準備とビバーク体験）
	1月 4日	乗鞍岳善五郎滝（アイスクライミング）
	1月 5日	鉢伏山（雪上日帰りハイキング）
	1月30日-2月1日	八方尾根スキー場上部八方尾根（雪上訓練・雪上テント泊）
	2月14日	五竜岳遠見尾根（イグルーブ作り体験・日帰り）
	3月 5日	樽池白馬乗鞍岳（山スキー・日帰り）
	3月26日-27日	乗鞍岳（山スキー合宿・雪上歩行・雪洞もしくはイグルー泊）